

こっこめ通信 11 2021

「アサギマダラと八丈学講座」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

秋も深まり、八丈島でも朝晩は肌寒く感じるようになってきました。台風接近の影響で林道が通行止めとなり、ビジターセンターの行事が中止を余儀なくされたこともありましたが、本州では紅葉の季節が本番を迎える頃ですが、八丈島の落葉樹はほとんど色づくことなく葉を落とし始めて、色彩に乏しい島の秋を実感させられます。今回は「旅する蝶・アサギマダラ」のお話と、久しぶりに実施することができた八丈学講座の報告です。

海を渡る蝶アサギマダラ

春と秋、島の林道などで浅葱色（あさぎいろ）の美しい翅を大きくゆくりと動かし、フワフワと優雅に飛んでいるアサギマダラの姿が見られます。それほど多くの個体が渡ってくる訳ではありませんが、出会うととても嬉しくなる蝶です。

アサギマダラはマダラチョウの仲間であげハチョウと同じくらいの大きさです。一見、弱々しく見えますが、実はとても丈夫でこの小さな体の中には1000キロもの長旅をする力が秘められているのです。寿命もとても長く、モンシロチョウの平均寿命が14日間ほどなのに対し、アサギマダラの平均寿命は4～5ヶ月ととても長生きです。

春に南から北へ、秋に北から南に移動するアサギマダラですが、移動については分かっていないことが多く、謎だらけの蝶なのです。

そこで、この移動を解明するため、翅にデータを書いて放つ「マーキング調査」がいろいろな場所で行われています。過去には八丈島でも大阪府池田市五月山でマーキングされた個体が再捕獲されたことや、八丈島でマーキングした2個体が1000キロ以上離れた喜界島で再捕獲された事もありました。（こっこめ通信2009年12月号参照）

10月27日、またしても島民の方からマーキングのあるアサギマダラの情報提供がありました。翅には「カル7 9.12 60」の文字が確認できました（写真右上）。これは、軽井沢アサギマダラの会の方が9月12日に60頭目にマーキングしたという意味のようです。マーキングされた場所（蝶の楽園）から八丈島まで直線距離にして約372キロ（右地図）。その間には伊豆諸島が並んでいるので、島伝いに休み休みやってきたのでしょうか。こうやって地図に書き起こしてみると、実に遠くからやってきたのだということを実感しますね。それでも、アサギマダラにしてみれば大したことはないのかもしれません。

30日にも別の場所でマーキングされた個体が撮影されましたが、残念ながらこの個体に書かれた場所などの特定はできていません。

このマーキングによって、過去にはこんな事例もあったようです。やはり軽井沢の方が2018年10月1日にマーキングして放蝶した個体が、11月1日長崎のバイオパークで再捕獲され、もう片方の翅に「NBP（ナガサキバイオパーク）11.1」と記したそうです。それが今度は11月10日台湾で発見されました。発見した学生がSNSを介してナガサキバイオパークに連絡をし、このアサギマダラがはるばる台湾まで渡って行ったことが判明したそうです。実に直線距離で2300キロもあったそうです。こんな小さな蝶なのに驚きです。それに、見知らぬ人同士がアサギマダラを通して繋がっていくって素敵なことですね。アサギマダラの旅の無事を祈りつつこの辺で。（M.K.）



「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

八丈学講座復活！「裏見ヶ滝自然観察会」

3ヶ月ぶりの開催となった八丈学講座「裏見ヶ滝自然観察会」は参加人数は少なかったものの、久しぶりのフィールド行事とあって常連の方達は様々な話題で盛り上がり、終始賑やかなイベントになりました。

解説員が勝手に選定した「八丈島のシダ植物三大普通種」もじっくり観察することができ、事前に少しだけコースを整備しておいたおかげで、全行程ストレスなく島の自然を楽しむことができました。(T.K.)



滝の裏側を通る遊歩道。極端に水量が多い時は雨合羽をしっかりと着込んでいないとずぶ濡れになってしまいますが、今回はギリギリセーフでした。



今回の観察コースは中之郷地区の主な水系を全て網羅する貴重なコースになっています。実は安川が農道と交わる場所にはもう1本、小さな流れが合流しています。



裏見ヶ滝の少し下流には川を渡る小さな吊り橋があります。橋の上から上流を眺めた景色は水の豊富な八丈島らしい景観で、観光客の皆さんにも人気があります。



三原川に合流する直前の安川は小さな沢ですが、いつ覗いても急流になっています。また流れのすぐそばまで植えられた園芸植物から昔の島の生活が偲べれます。



八丈島ではこの裏見ヶ滝周辺でしか確認されていないケボシダ *Thelypteris parasitica* シダ好きなら、ここへ来たら見逃してはならない植物です。



安川沿いの水路の壁では八丈島の陸産貝類の中で謎の移入種ウジグントウギセル *Mesophaedusa ujiguntoensis* が見られます。生物の持ち込みは厳に慎みたいですね。

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きものを観察して季節を感じてもらう目的で「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。季節の変化を感じられる植物は全て記録し、野鳥や昆虫の様子も観察しています。今回 10 月 10 日は久しぶりに公募行事として実施することができました。

八丈植物公園季節調査（2021 年第 10 回）参加者：茂手木、沖山美、木下、沖山三、VC 菊池

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			34	ツルマオ	花と実	17	ハチジョウキブシ	実
1	アオツツラフジ	花	35	テンツキ	実	18	ヒメユズリハ	実
2	アオノクマタケラン	実	36	ナキリスゲ	実	19	ホルトノキ	実
3	アキノノゲシ	蕾	37	ハイメドハギ	花	20	ヤブツバキ	実が割れる
4	アシタバ	花と実	38	ハチジョウアザミ	花と実	21	ヤブニッケイ	実
5	イガガヤツリ	実	39	ハナイバナ	花	シダ植物		
6	イヌホオズキ	花	40	ハハコグサ	花	1	アマクサシダ	
7	イワニガナ	花	41	ヒナギキョウ	花と実	2	ウチワゴケ	
8	ウスベニニガナ	花と実	42	ヒメクグ	実	3	オオイタチシダ	
9	ウリクサ	花	43	ヒメムカシヨモギ	花と実	4	オオタニワタリ	
10	オオアレチノギク	花と実	44	ヒメヨツバムグラ	実	5	オニヤブソテツ	
11	オオバコ	花と実	45	フウトウカズラ	実	6	カニクサ	
12	オニタビラコ	花と実	46	ヘクソカズラ	若い実	7	シチトウハナワラビ	栄養葉のみ
13	オニドコロ	実	47	ヘラバヒメジョオン	花	8	スギナ	
14	オムナグサ	実	48	ホソバツルメヒシバ	実	9	タチクラマゴケ	
15	カタバミ	花	49	メリケンカルカヤ	花	10	タチシノブ	
16	カラムシ	実	50	ヤマイ	実	11	タマシダ	
17	キツネノマゴ	花と実	木本			12	ナチシケシダ	
18	クグガヤツリ	実	1	アオキ	実	13	ナチシダ	
19	コニシキソウ	花と実	2	イタビカズラ	実	14	ノキシノブ	
20	コミカンソウ	花と実	3	イヌビワ	実	15	ハチジョウカナワラビ	
21	コメヒシバ	実	4	イヌマキ	実	16	ハチジョウシダ	
22	ササガヤ	花	5	オオアリドオシ	実	17	ハチジョウベニシダ	
23	シチトウスミレ	閉鎖花	6	オオムラサキシキブ	若い実	18	ハマハナヤスリ	
24	シマササバラ	実	7	ガクアジサイ	若い実	19	ヒトツバ	
25	シマスズメノヒエ	実	8	サカキカズラ	蕾	20	ヘラシダ	
26	シマナガバヤブマオ	実	9	シマクサギ	花と実	21	ホシダ	
27	ススキ sp.	実	10	シマモクセイ	蕾	22	ホラシノブ	
28	センニンソウ	若い実	11	シロダモ	蕾	23	マツバラ	
29	タチスズメノヒエ	実	12	スダジイ	実が残る	24	マメツタ	孢子葉
30	チチコグサ	実	13	タイミンタチバナ	実	25	ミゾシダ	
31	チチコグサモドキ	実	14	テイカカズラ	実	26	ヤマイタチシダ	
32	チヂミザサ	花	15	トベラ	実	今回は、シダ植物 26 種を含む 97 種の植物を観察しました。		
33	ツユクサ	花	16	ハゼノキ	実			

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、「サイゴクホングウシダ」にスポットを当ててみたいと思います。



サイゴクホングウシダ *Lindsaea japonica*

八丈島にはホングウシダの仲間が 4 種類自生していますが、中でも本種は水が大好きらしく、もっぱら川の中に顔を出している岩の上に着生しています。もしも川が増水して激しい濁流が起きたら簡単に剥がれ落ちてしまいそうですが、サイゴクホングウシダの自生地は川の最上流部に近く、極端な増水の心配はなさそうです。

ところで本種の自生が確認されているのは、八丈島に何本もある水の涸れない川の中でもたった一本だけです。孢子で繁殖する植物は分布を広げるのが得意そうなのに、どうして他の川で見つからないのでしょうか。真面目に調査していないだけ？ (T.K.)

2021 11

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります	1	2	3 ガイドウォーク	4	5 ●	6 ガイドウォーク
	01:57 15:01 08:15 21:10	02:58 15:28 09:04 21:40	03:49 15:54 09:47 22:12	04:38 16:21 10:28 22:47	05:26 16:49 11:06 23:24	06:16 17:17 11:44
立冬 7 ガイドウォーク 秋の特別行事 「シダ植物観察会」	8	9	10	11 ☾	12	13 ガイドウォーク
07:07 17:45 00:03 12:20	08:01 18:16 00:45 12:57	09:02 18:48 01:30 13:37	10:16 19:25 02:21 14:29	11:14 20:16 03:31 16:04	13:01 22:32 04:40 18:42	13:49 06:11 20:00
14 ガイドウォーク 植物公園季節調査会	15	16	17	18	19 ○	20 ガイドウォーク
01:06 14:23 07:28 20:39	02:29 14:50 08:25 21:11	03:25 15:15 09:09 21:41	04:09 15:39 09:47 22:09	04:48 16:04 10:21 22:38	05:24 16:28 10:54 23:07	05:59 16:53 11:24 23:37
21 ガイドウォーク	小雪 22	23 ガイドウォーク	24	25	26	27 ☾ ガイドウォーク 八文学講座 「末吉神子尾散歩」
06:33 17:18 11:54	07:08 17:43 00:08 12:22	07:44 18:08 00:40 12:50	08:24 18:35 01:15 13:21	09:10 19:04 01:53 14:01	10:08 19:43 02:37 15:04	11:18 21:02 03:33 16:59
28 ガイドウォーク	29 ☾	30				
12:24 23:35 04:45 18:53	13:15 06:07 19:49	01:29 13:56 07:21 20:31				

イベントプログラム

秋の特別行事 「シダ植物観察会」	東京文化財ウィーク 2021 企画事業として実施します。シダの宝庫八丈島を楽しみ尽くそう。 11/7(日) (9:30~15:30) 中学生以上 鴨川林道入口 集合・解散 参加費:50円 定員:15名
植物公園季節調査会	植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう! 11/14(日) (13:30~15:00) 中学生以上 ビジターセンター集合・解散 無料 定員:10名
八文学講座 「末吉神子尾散歩」	毎月行っている八文学講座。今月は末吉地区の神子尾周辺を歩きます。 11/27(土) (13:30~15:00) 中学生以上 町営バス神子尾バス停 集合・解散 参加費:50円 定員:10名
植物公園ガイドウォーク	解説員が植物公園内をご案内します。 毎週 土日及び祝日、(10:30~約1時間) だれでも参加できます。 ビジターセンター集合・解散 無料 定員:10名

ビデオプログラム

10:00~	八丈・海・生きものたち
11:00~	おじゃりやれ 八丈島
14:00~	おじゃりやれ 八丈島
15:00~	おじゃりやれ 八丈島
16:00~	八丈・海・生きものたち
当面の間は上記のみの上映になります	

東京都八丈ビジターセンター 2021.11.1 第246号

開館時間 9:00~16:45 年中無休(入館無料)
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話:04996-2-4811 Fax:04996-2-4888
E-mail:info@hachijo-vc.com
http://www.hachijo-vc.com

編集後記

マーキングされたアサギマダラが確認されたので、久しぶりに林道で別の個体を捕獲し「八丈島 10/29(採集した日) 通し番号 8 VC」とマーキングしてみました。八丈島の先は何処の島まで飛んでいくのでしょうか?再捕獲されると嬉しいです。(H.T)